

# ヒラメ稚魚大量死の原因を解明

近年、ヒラメの稚魚が全滅する病気が発生し、各県の種苗生産施設などで深刻な問題となっています。この病気はウイルスが原因と思われるのですが、これまでは病気の原因となるウイルスを分離して培養できなかったため、ウイルスの特定や、迅速な診断法の開発がされてきませんでした。

水産研究・教育機構は、この病気を防ぐ技術を開発するために、病気の原因ウイルス、感染経路などの解明に取り組みました。その結果、病気の原因がアクアレオウイルス（写真）と呼ばれるウイルスであること突き止め、原因ウイルスの分離・培養方法を開発しました。そして培養したウイルスから全ゲノム情報を解読し、このウイルスだけがもつ遺伝子を検出できる迅速な診断方法を見つけました。さらに、生きたヒラメの一滴の血液中のウイルスに対す

る抗体の量を測ることで、ウイルスに感染していたかどうか分かる検査法も開発しました。

これらの診断法や検査法を用いて感染経路の解明に取り組んだ結果、種苗生産に用いたヒラメ親魚が本ウイルスを持っていて稚魚の感染源であること突きとめました（図）。

これらの成果をもとに、受精卵を消毒することで感染を防ぐことができるかなど、アクアレオウイルス感染症の防除技術を開発中です。

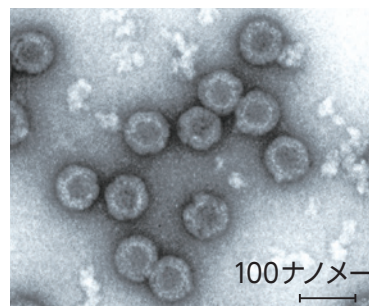


写真 アクアレオウイルスの電子顕微鏡写真

1ナノメートルは1ミリの百万分の1。1万分の1ミリよりも小さいウイルスです

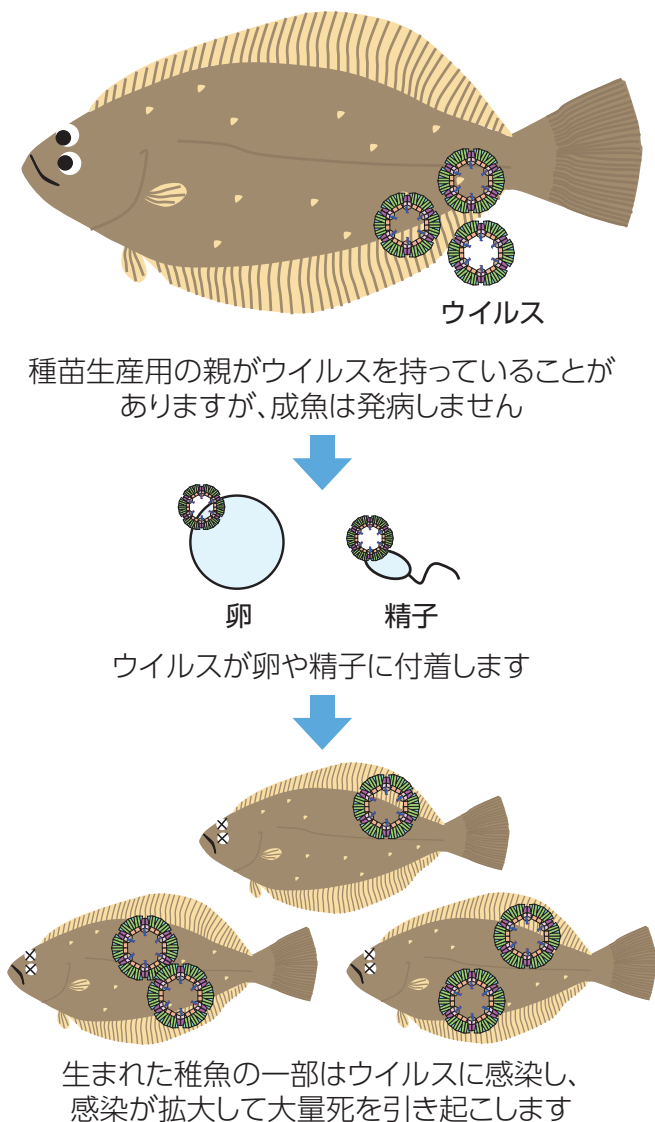


図 ヒラメのアクアレオウイルス感染症の感染経路

本研究の成果の一部は、農林水産省の水産防疫対策委託事業によるものです。